

ピアノが教えてくれたこと

代田中・1 宮道 菜々美

今日も私は

部屋の隅に置いてあるピアノと向き合う

私のピアノは

小学一年生のときから使っている

付き合いが長いピアノ

このピアノには思い出がつまっている

小学三年生のとき

発表会の曲の練習をしていた

曲名は

バームクーヘン

曲名ほど甘くはなかった

難しいリズムやフラットやシャープが

いくつも出てきて

私の演奏を邪魔する

九歳の私は

頭がこんがらがった

まちがえるたびにイライラした

感情をピアノにぶつけて

乱暴に扱ってしまった

お母さんに

もっと優しく扱いなさい

と怒られて泣きながら練習した

さつきはごめんね

謝りながら優しく弾くと

いいよ

ピアノが許してくれて

まちがえていたのがうそのように

すんなりと弾けた

小学五年生のとき

自分が好きな曲を選んで弾いていた

好きな曲は一時間以上練習することもあった

でもその曲独特のリズムに苦しめられた

先生とのレッスンのときに

何度も言われたことを

時間をかけて直した

練習を重ねるうちに

どんどん上手に弾けるようになった

弾けた後はただ楽しくて

心も音も弾んでいた

たくさん思い出をつくって

経験するうちに

ピアノが教えてくれたことがある

音色は感情に比例する

イライラした感情で弾いたら

乱暴な音色が返ってくる

楽しい感情で弾いたら

弾んだ音色が返ってくる

ピアノは感情によって音色が変わる

今日はどんな音色だろう

大丈夫

ピアノは教えてくれる

期待を裏切らない

私の感情を露わにして

今日の音色が奏でられる